

会議議事録（要旨）

会議の名称	令和6年度 第2回鳥取市地域福祉計画・地域福祉活動計画 作成委員会（③地域で安心して暮らせる基盤づくりに関する専門部会）
開催日時	令和6年7月23日（火）13:30～15:30
開催場所	鳥取市役所本庁舎 6-5・6-6会議室
出席者氏名	別紙（委員名簿）
欠席者氏名	箕委員、山本委員
事務局職員氏名	山内地域福祉課長、大島地域福祉課参事、清水地域福祉課課長補佐、西谷地域福祉課主幹、岡部中央人権福祉センター参事、柘谷障がい福祉課長、藤木中央包括支援センター所長、西尾健康づくり推進課長（以上、鳥取市） 松本地域福祉課長、城野地域支え合い支援課長、株本地域支え合い支援課主査（以上、鳥取市社会福祉協議会事務局）
会議次第	1 開 会 2 地域福祉課長あいさつ 3 出席確認（林委員、西井委員紹介） 4 議 事 (1) アンケート調査結果から見る課題の整理（資料1） (2) 地域福祉活動団体・支援機関の主な意見から見る課題の整理（資料2） (3) 重点取組に対する取り組み状況・成果・課題等について（資料3） 5 その他 6 閉 会
配付資料	資料1 《地域福祉に関する意識調査の結果（概要）》（補足） 資料2 地域福祉活動団体・支援機関の主な意見（まとめ） 資料3 意見交換用参考資料（鳥取市版・鳥取市社協版） 参考資料 計画の基本的な考え方 その他 次第、委員名簿

議事内容（要旨）	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会</li> <li>・課長挨拶</li> <li>・出席確認（林委員、西井委員紹介）</li> </ul>
事務局（進行）	議事に入ります。まずは(1)アンケート調査結果から見る課題の整理（資料1）(2)地域福祉活動団体・支援機関の主な意見から見る課題の整理（資料2）について説明をお願いします。
事務局	資料1、資料2及び参考資料の説明
事務局（進行）	ここからは意見交換として、今までの説明や委員の今の活動をふまえて意見交

	換をする場にしたいので、よろしくお願いします。
事務局（進行）	今までの説明の中で分からないことがあればお願いします。
H委員	避難行動要支援者支援制度について、個別避難計画とはどの程度の計画なのか知りたいのと、支援者に責任がないのは分かったが、どんなことが計画の中で、支援する人たちに求められる中身として書かれているのか、実際に4300人の方が計画を作られたということなので、その計画を作られた方々は、こういった方々が実際に支援される立場で申請に至ったのか、どのようにして、こんな数字まで到達できたのか、そこがお伺いしたい。
事務局	<p>この避難行動要支援者支援制度は、平成18年から、その当時は災害時要援護者支援制度という名前だったと思いますが、それでスタートしております。その時に、まずは高齢者を中心に、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、そういった方々に計画を作ってくださいということで、制度ができた当初は担当部署が地域を回って説明し、計画作成の申し出がどんどん増えたというような経過があるようでございます。今の実績は4300人ほどになっていますが、一時期は5000人を超えた数字で推移をしておりました。</p> <p>内訳としましては、まず、この避難行動要支援者のいわゆる要支援者の判断について、鳥取市は地域防災計画の中で定めておまして、要介護3以上、身体障がい者手帳1, 2級、いわゆる重度の方、知的障がいであれば療育のA、精神障がい者手帳の一級、あとは医療的ケアの必要な方などを、まずは避難行動の支援が必要な方と定めております。そういった方々が鳥取市全体で5000人以上はいらっしゃいます。</p> <p>それ以外に、以前からあった一人暮らし高齢者で、介護認定等はないが一人暮らしで避難が困難等としてとらえている方は、2000人ぐらいおられます。</p> <p>計画の中身につきましては、緊急時の連絡先だったり、ご近所の支援者さんや、実際に大雨でどこに避難するのか、まずいったどこに避難してもらうのかなどを記載していただくという中身になっております。</p> <p>支援者につきましては、今は近所の付き合いが希薄になってきている中で、支援者がいないまま計画の作成というパターンも最近随分増えてきています。結局頼める人がないので支援者が見つからないまま、一応計画だけは作る方もたくさんいらっしゃいます。</p> <p>また最近、今日お配りしたチラシ裏面の「05 制度の登録について」というところに記載していますが、もっと積極的に進めなければいけないということで、今までは、いわゆる地域の自治会や民生委員に協力をお願いをしていましたが、昨年からは、介護サービスを受ける方はケアマネさんがついていらっしゃったり、障害福祉サービスであれば相談支援員さんがいらっしゃったりということで、そういった方々に、ご自分の利用者さんに対して働きかけをしてくださいというようなことで、市では約20法人と契約させていただいて、計画が作成できたら委託料をお支払いする契約を結んでいます。</p> <p>ただケアマネさんも忙しかったりするので、件数的にはあまり増えていないですけど、新しく福祉の専門職に関わっていただいた内容はかなり詳しいものになっておまして、普段のサービスをどこで利用しておられるか、飲んでる薬、</p>

	<p>どういったときに非常持ち出し品を持ち出さないといけないのか、あるいは寝室の場所、どこで寝ておられるかといったようなこともかなり詳しい中身にしております。</p> <p>あまり詳しくすぎて、ケアマネさんが負担に感じてしまうかなというのも少しありますが、一応そういった中身で進めていこうと思っています。今は、今まで通り地域から上がってきた方と、ケアマネさん等の専門職が関わった方とで、避難計画書が2種類に混ざっているというようなことになっております。</p>
G委員	<p>私も自治会の区長をやっていたり、自主防災会の会長をしておりますので非常に関心のあるテーマですけれども、例えば「支え愛マップ」というのがあります。これは具体的に要支援者をマップに載せる作業をするのですが、その際、個人情報の問題が関わってきますし、これを全戸配布するわけにもいきませんので、出来たマップを誰が持つのかというのが一番の鍵になると思います。</p> <p>その辺の使い方といいますか、広報がいるかと思うのですが、その辺はどういうふうに考えていけばいいのかなということと、もう一つ、愛の訪問協力員と、となり組福祉員という制度がありますが、これも実際に何人かすでにいらっしゃって、これという方には大体配置をしているのですが、やっぱり個人情報がネックになっていて、ちょっとまだ進んでないなという感想をもっています。</p> <p>例えば地域の方が災害のときには、どう避難したらいいのかとか、どの方向に逃げたらいいのかとか、なかなか地域で考えられないというか、ある程度専門的な知識がある方からのサポートが必要になってくると感じております。福祉の連携とか指導とかですね。そうしないと進んでいかないんじゃないかなという気がします。</p>
事務局	<p>支え愛マップ等のことになります。進めるに当たっていろんな課題を解決しなければというところですし、もちろん本人さんの同意も必要ということになりますし、落とし込んだら落とし込んだでそれをどういう目的で例えば周知していくのかどうかとか、作られたマップを例えば公民館の中の方に掲示される場所もありますし、データに落としてそれぞれの班長さんや役員さんがお持ちだったりというような他の方法もいろいろあったりはいたします。ただそれを実際全部が全部その情報が落とし込めるかというところとご本人の了解が得られるのがなかなか難しいということで先ほどもありました。調べたくないというところもありますし、ただ実際にいざとなったときにはご自身で難しい場合はどなたかの支援が必ずいるということもありますので、そういったところをマップ作成のときに目的や事例をお話させていただきながらやってるわけですが、そこのご理解の部分が難しいということで支え愛マップの作成も少し足踏み状態というのがありますし、地域の協力がやはりあってというところもありますし、ひとり暮らし高齢者の方になりますと特に協力員さんの見守り支援・平時からの声かけが必要になっているところもありますし、その方が避難するときに支援者になりうるかどうかというところもやはり連携をしていくという部分になると難しいところがありまして、本当に地域に必要なことではあるんですけども、その必要なことをみんなでどう共有しながら必要性を理解して進めていくか、というのが今なかなか情報を共有するのは難しくなっているというのが現状かと思っておりますし、いざとなれば本当</p>

	<p>に動いてくださる方もいらっしゃると思いますが、そこを周知していく部分というのは工夫が要るのかなと思います。</p>
事務局	<p>ちょうど佐治は去年の台風7号で大きないろんな被害があって、最近でも確かL委員さんのところを中心に何かいろんな話し合いを持たれてるみたいなことも新聞で紹介されたりしてましたけど、その辺のところでは何か参考になるようなとか、何か地域でどういうふうな盛り上がり、と言ったら変ですけども、チームになって、今そういう取り組みされてるのかなというのはちょっと紹介をしていただけたら。</p>
L委員	<p>今、佐治町で取り組もうとしている状況というか方向性としたら、佐治には26町内会があるんですがその町内会の中で当然左右の、佐治の谷というのは西から東に佐治川が流れていて、佐治川の両岸に26の町内会が点在しているような一本の谷なんですね。そうなってくると、この間の台風7号の大雨のときで当然、何ともなかったところや、ものすごく危ない目をされたところの温度差はかなりあるんですよ。それはそれでもうどうしようもないんですけども、やっぱり私自身もそうだったんですけども、災害とか防災のことでは本当に自分事としてあんまり考えてなかったっていうかね、それが本当に正直なところなので。ただやっぱり、いかに自分事として捉えて行動に移していくかっていう部分をテーマにして、その26町内会で全部もうこういう災害防災講習会みたいなのを計画していこうということで今年からそういう計画を立てて進んでいくんですけど、その内容は支え合いマップの部分と、あとは避難スイッチだとか、集落行動計画だとかマイタイムラインだとか本当に命を守る部分の取り組みを中心にそういう意識を高めていこうというような形で思っていますので、この支え愛マップに関して言えば、その避難行動要支援者に登録してるとかしてないに関わらず、地区や町内会に住んでいれば、この家はどういうお母さんがいて支援が必要かどうかってみんながわかっているんですよ。なので、名簿に登録されてるされてないに関わらず、この支え愛マップのような形で災害が起きたときにはどこが危険だからどういうふうに避難しないといけんだとか、この家には助けに行かないけんとか、どういうふうに助けて誰が助けに行こうかというようなことをみんなで話し合っ、いわゆる集落行動計画みたいなのを立てて、それをみんなで共有するような形にしていこうかなというようなことを今考えています。</p> <p>なので、避難行動支援者名簿に登録してるしとらんっていう部分は個人情報でしようけども、この人は何とかしてあげないけんというのは、名簿に登録しているしていないに関わらず、みんながやっぱり知るべきだと思うんですね。そういう部分でそういう形を目指していこうかなと思っています。</p>
事務局（進行）	<p>佐治の例っていうのはすごくテレビも新聞も、この前の災害のときによく佐治はすごいねって言われたのは、地域力がすごくあるなっていうところがすごく言われたところがあったと思いますので、今おっしゃられるように、こういうのがなくても、いうことをね。</p>
事務局	<p>さじ未来ばかりでなく、行政との関連は。</p>
L委員	<p>災害に強いまち作り事業実行委員会を作ってね。もちろんその構成団体の中にはさじ未来も入っているんですけど、自治連合会・自主防災会やまち協やいろん</p>

	な関連団体が入っていただいて実行委員会を作っていて、その実行委員会で推進していくということはしてるんですけど。
A委員	すみません。それは災害に遭ったからそういうふうになったということですよ。それまでの地域力というのはどういう形で何か。
L委員	通常の他の地区と同様に自治連合会があったりまち協があったり、ごく一般的な地区でした。ただ去年の8月15日の災害を受けて、天災自然災害はもう起きたことはどうしようもないですけども、全てをそれで済ましてしまったら、また去年の8月15日のような大雨が降るかもわからないですし、そのときに今度は不幸にもそういう人的な被害が出るかもわからんし、もっと大きないろんなことが起きるかわからん。やっぱりそういうときに備えてやっぱり何かできることを取り組もう、ということが発端だったんですけど、それまではもうおそらく何も、あまりこう身近に感じてなかったのが正直なところですよ。
事務局（進行）	災害があったからその地域力が上がったというようなところかなと。
L委員	一つはそれはあります。ただ、そういうふうにとまられたというのも、佐治は1地区1公民館でコンパクトになるところなので、そういう面ではまずとまりやすいという部分はあったかもしれないんですけど。
事務局	合併前の旧佐治町さんなどは、元々のそういった町内会の加入率が下がっていったりとか地域コミュニティの希薄化というのが、今のところ新市域は以前のそういった地域力はまだ比較的残ってるのかなと。だから、多分あそこのおじいちゃんおばあちゃんを近所の方は誰でも知ってるよと。これが今の街中になると、それこそ隣に住んでる人さえわからないみたいな、そういったところの違いはあるんだろうなと。 ただ、やっぱり同じようにここでも災害が起こりますから、そのときに隣の人は全然知らなかったけど助けなかったな、とならないようなことはやっぱり同じようにしていかないといけない。そのための仕掛けを元々若干土台ができてるところと、そういう土台が今もうなくなって作らなければいけないというところの違いはちょっとあるのかなと思ったりして、はい。
H委員	もう一つ質問なんですけど、佐治町がよくわかってないんで、佐治町は途中で合併されて、地域のそういった取り組みをする際の行政的な窓口になるようなところはありますか？
事務局	総合支所があります。
H委員	総合支所が佐治町にあって、その担当の方と担当部署の方が相談に乗ってもらいながら一緒に取り組んでおられる。
L委員	そうですね。
H委員	わかりました。ありがとうございます。
G委員	自治会加入率の話もありましたけど、我々も地域でどんどん勧誘の働きかけをして加入率は100%近いんですけど100%ないところが市内にありますよね。そこが一番問題じゃないかなと思うんですけど。結局自治会に入っていない人は支援の対象にならないとかそういった可能性もあるんで、そこをどうするかという話もあるかと思えますし、最近では警備会社と委託して、通報システムとか困ったときに呼び出しをするみたいなことをやってる方もあるので、その辺がどうい

	<p>うふうに機能していくのかわからないですけども、ただ単に病気だったり困ったことならいいんですけど、呼び出しだけじゃなくて、災害時なんかはどうしたらいいのかなっていうことを聞かれたこともありますし、業者の方もそういったシステムが役所の方に繋がるとか社協に繋がるとかそういったシステムがあるのかどうかということをお教えいただければ。</p>
事務局	<p>今行政としてやっているのは「あんしんホットラインサービス」というのがあって、一人暮らしの高齢者さんのところのボタン一つで協力員などに連絡が行くと、協力員さんを一応定めてもらって協力員さんに連絡が行くんですけども、最終的にはこれを委託している。警備会社の方に連絡が入ってそこが動かれるシステムというのの一つあります。</p> <p>今ホットな話としては、鳥取市のスーパーアプリというのを今民間さんが考えられている中で、いろんな防災情報や市報を電子で読める。あと図書館の電子図書も利用できる。そういったいろんなツールを一つのタブレットの中でアプリとしてまとめてそこに付加するものとして、今民間さんがやっておられる買物支援だとか、そういったことにも利用できるような、その一つの機能として、見守り機能っていうのをつけたらどうだっていうので、これから実証実験が始まる中に佐治さんも少しちょうど買い物支援とかもしておられたりする関係もあったりとか、そういった見守りに関する実証実験に協力していただくような方向で今進んでるんです。</p> <p>ただこの前話を民生児童委員さんの集まりの場所でしたんですが、そもそも年寄りにはタブレット使えるかな、いえいえ、インターネットで Wi-Fi の機能あるかいな、そこから始まっちゃって。元気な人でいくらでも使える人は思いつくんですけど、その人にも見守り支援いるか、という話になって、どこまで手が挙がるかなっていう今様子見になっちゃったんですけども、例えば今はお元気で使う必要がないと思われる方も年を取ってくればいずれそのうちそういった、それなら今のうちにそういうツールに慣れてもらって、今でも 65 歳や 70 歳でスマホやタブレットでされる方もたくさんあるので、そこからずっと繋がっていけばいいのかな。ただ今皆さんが思いつかれるのは、必要だけど、逆に使える人は今は必要ない、そんな話に今なっていて、さっき ICT みたいな話もちよっと出てくるんですけども、そういったことも、これを計画のどこまで書けるかわかりませんが、これからの時代としては必要になってくるかもしれない。</p>
L 委員	<p>スーパーアプリですが、今年試行的に、タブレットを貸与してっていうことは聞いておりますが、説明して配って使ってみてくださいということもそれはそれでいいんですけども、高齢者の皆さんはそれだけではやっぱり、そのときはちょっと持ってみても、あとはもう使わないようになることが考えられるので、必要なことは、それを配ってさらに使うように働きかけるような人材というか推進員というか、そういうようなものとセットでスーパーアプリの事業を推進してもらう必要があるんじゃないかなと思います。</p>
G 委員	<p>公民館で温湿度計の貸し出しがあって借りて帰ったんですけど、いいですね。顔が表示されていて、厳しくなるとしんどい表情になってくるっていうのがあって非常に面白いなと思って。そういうことで自分を守る対策をするという。</p>

事務局	ここ近年暑さが厳しいということもあって、保健所の保健師さんが熱中症対策の意味で啓発を進めていくということで、そういう温湿度計で自分が今どうなのかというのを見える化しているというのもあります。
G委員	たまたま知りましたけど周知されてないと思います。
事務局	去年、保健所の方が国のモデルで、一人暮らしの方に、全員じゃないですけども、使ってみてくださいっていうことで配ったりして、熱中症予防の啓発活動もやっていました。
H委員	この個別避難計画作成のお話ですけど、開業医の先生であるとか医師会であるとか、そういったところとの連携があっという間のじゃないかなと思ってますけどね。というのはターゲットになるのが、高齢者、独居の高齢者の方であるとか要介護者の方で何らかの形で医療的な関与がされてたり、地域の開業医の先生のところにかかられていたりということがあるんじゃないかなと思ってですね、あと病院関係でいきますと退院時に独居の人の自宅退院っていうのが大きな課題になっていて、そこんところは必ず退院支援のそういうところとの連携でどんな可能性があるのかとか、どういった連携がとれるのかとかいうのがもう少し改善できる可能性があるんじゃないかなっていう気はしてるのと、開業医の先生方でも地域でやっておられますのでそういった先生方の協力を得るっていうのもすごく大きな力になるんじゃないかなと思います。もう一つは緊急時の連絡先とか計画の支援者のところの役割が重たいかなって気はしましてね。もう少し簡素化して、すそのを広げるって形の方がいいんじゃないかなっていう。これは無責任な個人的意見ですが私は京都に長くいて、京都の地域の診療所にずっといたんですけど、そこで緊急通報システムというのが、アナログなんですけども、昼間独居の人も含めてですけどもおばあちゃんおじいちゃんの胸にボタンをね、鳥取にもありますかね。
事務局	あんしんホットラインの部分が多分ペンダント式になってますか？
事務局	ペンダント式と固定式の両方。
H委員	京都だと消防署に直接飛ぶんですよ。近所に2人だけ鍵を預かってくれる方を見つけて、その人に鍵を開けて様子を見てくださいというような連絡が消防局から入るっていう形でした。当然ないと仕方ないんですけど、京都って結構地域が強いようで強くないので、鍵だけだったらって店の方が関わってくれたり、結構人の家の鍵を持つのも勇気がいりますよね。そんな感じで何とかそういう人を行政のケースワーカーの人が探し出して、結構な数を普及してたと、今どうなってるか知りませんがね、もう20年以上前なので。市街地の方はそんな感じのもっと軽い形での関係性づくりでハードル下げていかないと、普及しんどいんじゃないかなという感想を。そういう意味で言うといろんな団体に関われるといろんなことできると思いますので、例えばうちの病院や診療所は、独居高齢者の住んでるおうちの見取り図をカルテに入れるようにしたんですよ。何かあったときに関わらないといけないということで、特に在宅管理してる患者さん150人ぐらいいるんですけど、そういった患者さんたちはやっぱりきちんと作ろうねみ

	<p>たいな話をしたり、外来でも独居の方はそういうものと扱うとしてたり、そういう協力を開業医の先生方をお願いすれば、協力してくれる先生なんかもいるんじゃないかなと思ひまして。そういったいろんな諸団体のところに呼びかけてもいいんじゃないかなと思ひました。</p>
事務局（進行）	<p>医療連携、いろいろな連携ですね、計画のあり方とか。</p>
事務局	<p>医療的ケアとかそういった災害時のことは、関心のある先生方が今どういう制度になってるんだとか、福祉避難所の話だとかというのを言われる先生いらっっしゃいますので、こういうことは必要かなと。</p>
事務局（進行）	<p>他の自治体のことなど、またお気づきのところがあればお伝えいただけたらと思ひます。</p>
J委員	<p>個別支援計画やマップなど、おそらく災害とかを身近に感じてないのでなかなか浸透させる難しいとは思ひうんですけども、鳥取市ではハザードマップみたいのを作られてますよね、地図情報サービスで。その中でやっぱり危険度が高い区域から優先的に取り組みを進めていった方が、全体の団体数でこれだけ出来ましたって言ってもあまり説得力がなくて、これだけ危険度が高いところから作っていきますよって言った方が現実的かと。その際は例えば災害の講習会なり出前説明会をした上で、この区域はこんなところがやばいですよ、土砂災害の警戒区域、特別警戒区域に上がってますとか、浸水害ではこれだけ雨水がかさ増して、危険がありますよといったような説明する中で、支えあいマップとか個別支援計画の作成に取りかかってもらうっていう方がまだ説得力があるのかなと思ひます。支えあいマップも、まあできればいいんですけども、この意義はマップを作るために地域住民が集まること。集まって、要支援者について話し合うっていうことが一番の意義があることでして、そうすると地域の繋がりも今よりは強まっていくということなので、別に完成系を求めなくても、集まった回数であっても実績として上げていくとか、そんなことがあってもいいのかなというふうに思ひます。</p>
事務局（進行）	<p>確かに自分ごとと捉えるっていうことが、今先ほどの発言もありましたけど、そういった中でハザードマップの中で自分のところはどうかっていうところを意識する中で取りかかってもらうっていうのも一つの具体的なやり方なのかなと。</p>
L委員	<p>最近はいろんな災害が起きてますが、能登半島地震にしても、もういろんなところで地震が起きてるし、皆さんが災害に対する思ひっていうのは前より変わってきている。非常に現実的に危険な部分の認知度が高くなってんじゃないかと思ひうので、やっぱりこの今がチャンスというか、ちょっとでも意識が高いうちにどんどん進めた方がいいかなと思ひうんですけども。</p>
事務局（進行）	<p>猛暑もすごいですしゲリラ豪雨というこんな雨が一気に降ることもなかったというところもあります。自分ごとと捉える中で進めていくっていうことですから、庁内の中でも連携をより図っていきながらというところかなと。</p>
事務局	<p>いわゆる危機管理部門との連携強化といったことは福祉だけでできることではないと思ひているので、そういった連携強化をさらにして、自主防災会が主催していただくような会議に両方が出て行って、避難行動要支援者っていうと福祉で、</p>



	<p>避難訓練とか防災学習会という危機管理の防災コーディネーターが出たりとか、別々の動きでやっちゃってるんで、やっぱりそういうのを一緒にやっていくというのは効果的だろうと思うので、その辺はしていかなきゃいけないなという感じですよ。</p> <p>あと優先度も、この法人さんの方に委託するときに、いわゆる利用者さんの情報の中に優先度・危険度・家族情報を付け加えて、その中で優先度を見て声かけていただけませんかというようなことはやってるんですけど、それって個人個人のことなので、地域を集中的にっていうのは今まで要請があれば出て行くということをしてましたけど、その辺も少し考えていかなきゃいけないかなと。</p> <p>ただ、地震は予想できないので、ハザード上では浸水区域になっても地震はいつ何時起こるか分からない、そういった意識はもっていただく必要があるのかなと。</p>
J 委員	地震も活断層があって、各断層ごとに色分けされていますよね。だからその頻度が高いところからやっていけばいいんじゃないかな。
L 委員	こないだの NHK の放送の中でも言ってたんですけど、鳥取は地震が少ないと思っていると言われる方がほとんどだったんですけど、実際には内陸地震というのは鳥取はとても多いそうです。ちょっと意外だったなと思ってね。鳥取は地震の備えというか、いろんな耐震診断とかを建築課の方でされてるんですけど、もっと受ける件数を増やすとか、行政もどンドンその辺りも拡大してほしいなと思うんですけど。60 件とか何とか制限が多分あるので。
事務局（進行）	あと A 委員さんは今までの部分でご意見や感じられることがありますか。
A 委員	重点取り組み 1 の話で、いろんな町内会とか保護司さんとかボランティア団体さんとか社会福祉施設とか鳥取市や社協さんで、みんなで支えていこうっていう話だっていうのは理解できたんですけど、例えばボランティアの団体とか、団体同士の情報共有とか、そういうのができているのかなというふうになんかちょっとあって、例えば保護司さんの更生保護とか、女性の方の活動やボランティアの活動で、もし何か似たようなとか全く違う活動でも、例えば地域福祉に対する活動をしているのであれば意見交換をしたらすごくいいことになるんじゃないかなと思ったりしながら団体を見てたんですけど、なかなか意見交換をする場っていうのがないんですね。
事務局	そうですね、実は市社協の中に市民活動センターというボランティアセンターの委託を受けさせていただいておまして、その登録団体様同士が意見交換をする場所等は実際設けてはおります。ただそれは地域っていうわけじゃなくてボランティアの目的があってっていうところがありますので、今、A 委員さんが言われるように地域にも本当にいろんな活動をする団体さんがいらっしゃるならば本当はそういった団体さんが集まって話をするっていうのはもしかしたら、自分たちの活動が何かに繋げれるってことも理解いただけるでしょうし、実は城北はボランティア団体だけではないんですけど、他の団体がどういう活動してるかってやっぱり知っていかないといけないっていうのもあって、そういうのをネットワークを構築してるっていうのもあるので、そういう話し合いの場を上手に作る

	<p>ていけばもっとその活動が幅広くだったりっていうところはあるのかなと思うと、今はボランティアセンターは別のやり方でしてますので、またそれを、やり方をちょっと、地区単位というかちっちゃい単位で考えたらというふうに思います。</p>
A委員	<p>情報共有がたまにできたら、例えば社協さんとか鳥取市が取り組んでいくことを、民間で代わってできるんじゃないかって思ったりとか、情報交換する場があったらいいなと思います。</p> <p>例えば子供食堂が30箇所くらいあるというお話でしたが、食堂同士は、こっちはこんなものしているとか、たまに集まって情報交換したりすることはありますか。</p>
事務局（進行）	<p>あります。頻繁ではないんですけども、この前も総会というか意見交換会をさせていただいてますので、お互いにこんなことやってる、こういうやり方をしてるよ、などの意見交換はされています。</p>
A委員	<p>子どもに対するボランティアとか、そういう人たちの集まりとか、意見交換の場があったらいいのになっていうのはちょっとお話聞いて思いました。</p>
事務局	<p>個人情報、いわゆる支援が必要な方の情報みたいな個人情報ってあると思うんですけど、例えばボランティアセンターに団体として登録、これは多分活動の範囲が全市だったりとかして、それを志を同じくする人がいわゆるボランティアのグループとして登録されている。一方で地区は地区で地区内には子育てのサークルだったりそういったボランティアをやっておられる集まりっていうのはあるのはあるんで、その辺が全然情報も別々だったりとかして、なので今担い手不足、高齢化して担い手がなくなる、そこをどうやって新たな担い手を見つけ出していかっていうと、やっぱりそういった若い世代の方だったりとか、そういうのが繋がって地域でもちょっと活動してみようとか、そういう動きが出てきたらいいなって思ったりもしてるんですね。</p>
A委員	<p>行政さんがするのは、計画を立てるっていうことも大切かもしれないですけど、何か繋げるっていうことに力を入れたら、行政の負担も減るんじゃないかなって思いました。</p> <p>J委員が言われたように支え愛マップを作ることが目的じゃないので、それを作るために集まる。もしくは、うちの地区は支え愛マップいる？作る？作らない？っていう話し合いをするだけでも、いいと思うんですよ。うちはそんなものなくても、佐治さんみたいにもうみんながお互いを知ってるので、個人情報とかはもういいじゃないかっていうようなことを再認識するだけでもいいのかなと思うんです。そういう話し合いをすることが大事かなっていうのは、皆さんの話を聞いて思いました。</p>
H委員	<p>一つ事例紹介をします。どの重点課題に該当するのかわからないんですが、鳥取医療生協は、定款地域が鳥取の東部から中部までありまして、大体3万8000人から9000人ぐらいの組合員さんが地域におられて30の支部があるんです。その支部ごとに一つずつたまり場を作ろうという呼びかけをしておりました。</p> <p>倉吉にあった診療所が医師不足の影響で閉鎖を十何年前にして、建物があつたんでそこを拠点にたまり場にしてたんですけど、組合さんとの距離がありすぎて、もうそこは片付けちゃったんですね。で、集まる場所がないっていうことになっ</p>

	<p>て、この間ずっと溜まり場を作りましょうっていう話をずっとしてたんですけど、組合さんっていうのもかなり高齢の人からそうじゃない人までいるんですけど、今2ヶ所できました。倉吉市の街の中と、あと今回できたのは泊なんですね。漁村の人口が非常に減少して大変なところで、下駄屋さんをやってた家の娘さんが、もうやめたのでということで、店舗を改修してそこに常設のたまり場を作り、それを地域の方もかなり期待してくれて、学校の先生なんかと話をして子供たちが全員見学に来て、学校の帰りに寄って帰る場所にもなってるし、障害者施設の人たちも見にくる。地域の高齢者の人たちも車を押してきたりとか、そういう溜まり場ができて。そこに常設してるのは、その家の持ち主の当時の組合員さんと地域の役員さん。これをやるのに、医療生協は改修費用100万円出してるんですね。うちの身銭でした。毎月3万円の家賃補助をして運営する。</p> <p>やっぱり物理的な保証がないと地域のたまり場って作れなくてですね、もっと公民館さんとうまくやればいいなと思うんですけど、やっぱりうちはうちの独自の、組織上ありますので、地域に開けたたまり場を作ろうということで、かなりいろんな人たちが出入りしてくれているそうです。一度、1年ぐらい経ったらどんなふうになってるかちょっと見たいと思ってるんですけど、こないだ開所式が大山町であったんですが、病院の訪問リハビリをやってる方が来てたり、ケアマネージャーさんが入っていたり、いろんな人が寄ってたかって高齢者を支えるための思いを持って集まっておられる。鳥取市内ではもっといろんなことができるかなと思っています。</p>
事務局	<p>常設のたまり場ということで、これうちの計画の1丁目一番地、一番最初に書いてあることなんですね。これ6年前にできた計画でその当時この計画を作ったときの議論としては、やっぱり公民館を想定をして、そこが常設のたまり場にもなるし、相談の場所にもなるよそこでサロンが開かれて、そこにはコーディネーター、いろんな福祉をコーディネートする専門の職員を1人配置して、ネットワークを作ろうというのが6年前の構想。今、それはできてないねって、6年経ってもそれできてませんねというのがあって、今後の地域福祉を進めるにあたって、そこをどうするのか。今公民館もいろんなあり方を鳥取市も一応変えましょうということで、条例上の位置づけはこれまでの生涯学習の拠点から、地域コミュニティの拠点ということには変わりました。さっき少し前に例を言われましたけど、民間の方も有料で全然使ってもらっていいですよ、という位置づけには変わりました。けどまだ変わったばかりで、まだ公民館の職員さんはこれからどうなるのかいろんな問題があって、今この次の計画の中に、もう公民館拠点でやりますよって打ち出せるかどうか、というのをこれから皆さんと議論しなきゃいけないなと思っています。昨日おられた委員さんは公民館と書けておっしゃった姿もあったんで、我々進める側としては非常に心強いなと思うんですけど、実際にトータル的に見て、地区は41地区ですけど、公民館でいくと、今は鳥取市61公民館あって、そこに1人ずつ職員、コーディネーターを配置できるのかとか、いろんなことをこれからやっぱり総合的に考えていかなきゃいけない中で、ある程度理想像を持ちながら、どうしていくかなというのを議論していきたいなとは思ってます。一番肝がネットワークの核になる場所をどこに置くんだ、誰を</p>

	置くのか、というところが午前中にもですね、コーディネーターにどんな人を想定している、みたいな話も出てきてましたんで、そういうのを少し議論を深めていく必要があるなと思っています。
J 委員	倉吉市が県内で一番最初にまちづくりの拠点で条例を定めた。先行的なことをやってるかもしれないので、そういったところに照会してみてもいいかもしれない。
事務局	この公民館としては地区公民館、確かそれこそまたあれですけどL委員のところが指定管理を唯一民間さんで受けてもらっているところがあったりして。
L 委員	鳥取市の方からモデル的ということでご理解をいただいて、佐治の公民館は地域運営を行っています。コミュニティセンターの指定管理とあわせて、地区公民館事業も運営をしています。なので佐治の地区公民館は、公民館ということにしてますけど実際は市の条例からはもう外れていますし、職員も NPO の職員ですので、通帳を持たれたとかいろんな縛りがあって、それがいけんとか注意とかじゃなくて、やっぱり地域のことにもどンドン関わってもらえるような体制を今はやっていこうかなということで、今そういうことをしています。
G 委員	サードプレイスってことがよく言われます。第 3 の居場所ってことですけどもやはりそういった場所ですね、並びの関係というかそういったものが結構必要になってくる時代になったようです。 公民館というのは確かに一つの役割を持っていると思いますし可能性はあると思いますけども、例えばこの行政の資料の 15 ページの中に、相談支援体制の構築とありますけれども、行政の役割の中の 1 番から 5 番に、気軽に相談できるっていう文字が全部ついてます。なかなか気軽に相談できないそうなんですよ。その辺をどう本当の意味の気軽に相談できる場所にしていくかというのは、大事なところだと。言葉でいくら基本相談できると言われても、待ち構えていてもなかなか来てくれないので、その辺の仕掛けをどうしていくかっていうことが必要だと思います。
事務局（進行）	それに関連してもう一つ、行政の方の資料 3 の 23 ページにありますけれども、資料 23 ページの部分もこの部会に入るのかなと思うんですけども、その中で今居場所作りの計画にということですけど、地域づくりの事業というところで地域食堂ですね。この中で集まってもらって食事する中でちょっと会話が弾んで、実はこんな事があって、とかいう形で相談ができるようなこともできたら、というところは一つ言える点。地域づくりは地域食堂だけってわけではないんですけども、ちょっとそういう手法も取り入れてみようかなということで、この 23 ページになっている。 23 ページのところとか、何かのところでも、皆さん既に意見も出てますけれども、特にこれにスポットを当てて何か、というのがもしあればお聞きしたい。
J 委員	つながりサポーターの役割について、配食とか孤立とかの人をサポートする上でどうやって発見するのでしょうか。
事務局（進行）	発見というか、そうですね見つけ出すっていうところではなくて、普段から地域との挨拶でもいいので、地域の中で挨拶をしたりする中で、何か挨拶ができなくなったり姿が見えなくなったりっていうようなことや、新聞がずっと置いてあ

	<p>るというちょっとした気づきのところで、あれ、なんか大丈夫かなっていうようなちょっとした情報を行政の方に入れていただいたら、行政の方でもできる支援をというようなところですよ。</p>
J 委員	<p>そういう人を見つけられたら、個人名とか住所とかを行政につなげる。</p>
事務局（進行）	<p>もしできればそういったところで。</p>
J 委員	<p>それは本人の了解なしでいいんですか。</p>
事務局（進行）	<p>はい、それで。我々専門機関は、まずはどうした方がいいかということを考えて、もし自宅の訪問をした方がよければ、どうですか、お元気ですか、というような感じで行ったりということも、どういうふうにアプローチすればいいかっていうのは考えながらさせていただきます。</p>
J 委員	<p>民生委員さんの何か補完的な方みたいな感じ。</p>
事務局	<p>民生委員ではないけど、そういった情報を把握したら行政に情報提供しますよと。</p>
H 委員	<p>それを市民レベルでもっと軽い感じでね。そういったときにそういう安全を持って人たちを地域の中に作ると、そんなイメージだと思います。</p>
事務局	<p>敷居をなるべく低くした形で、あまり高くしすぎると、ちょっと私はずたづたになってしまう。そうじゃなくて、ちょっと何か気づいて、でも気になるけどどこに行けばいいかなというふうに、つながりサポーターの研修も受けたし、こういうふうになればいいんだ、相談をここにすればいいのがわかっていたら、ぱっと連絡いただけたら、というようなイメージ。</p>
H 委員	<p>活動がまだいっぱいできてるわけじゃなくて、できたのかできてないのかよくわかってないんですけど、うちは結構職員も入れたりして組合員が学習してサポーターになってもらったりしてやってるんで。かなりいい勉強ですよ。患者さんを見る目が変わったみたいな感想も聞かれていますので、そういうつながりサポーターとして学んだ人たちが地域におられると、いろんな繋がりや輪が広がる。伴走型支援なんていう感覚はすごいと思います。</p> <p>それで実際に支援があった方がおられると思います。うちでこないだゴミ屋敷になってる地域の人やいて、中の人や気がなってるんですけどどうしていいかわかんなくて、その人を社協さんや包括と相談して、こんな支援相談がケースカンファレンスに繋がった事例があって、そこにうちのつながりサポーターもいきますし、お客さんのスタンスと一緒に行動するかっていう、そんな話になっていました。</p> <p>一つ言わせてもらおうと、問題点、課題のところの関係者の相互連携とあるんですけど、（孤独・孤立官民連携）プラットフォームが立ち上がってシンポジウムをやったんですけど、プラットフォームに参加してる団体のあの会議がないんですよ。次何するんだってのはよく見えてなくて。ただ現状確認も含めて何かそういうのがあるといいなと。</p>
事務局（進行）	<p>あの件は仕込みを行っているところですのでしばらくお待ちください。ありがとうございます。</p> <p>あと他に何か気づきの点とかご意見とか質問とかあれば。</p>
H 委員	<p>どの団体かがわかんないんですけど、いろんな団体がいろんな形で連携したり支えたり、いろんな解決につながったりできなかったり、いろんな活動あると思</p>

	<p>うんですけど、一昨年だったかな、全国コミュニティなんちゃらセンターさんが、全国向けにいろんな団体に取り組んでいる繋がり作りの事例集を発行されたんじゃないですか。うちはすごくそれが刺激になったんですけど、何かちょっとでも鳥取の取り組みなんかの事例を寄せ集めて、この地域の公民館の活動とか多機関の取り組みだとか、そんなテーマごとに分けた事例集みたいなものを、ちゃんと予算を立ててもらって出して啓蒙するっていいですかね、こんなことだったらうちもできるよね、みたいなことがわかるような、そんな取り組み事例集みたいなのできないかな。何から手をつけていいかわかんないというのは結構多いんじゃないかと思うんですけど。希望ですはい。</p>
事務局（進行）	<p>そういったことも考えながらということで、時間も過ぎましたけれども、特にこれということがなければ、事務局の方にお返しします。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>（事務連絡）</p> <p>次回委員会の日程のご案内です。次回、第3回委員会も今回と同じく専門部会形式でお願いしたいと思います。この第3部会に関しましては、8月30日金曜日、午後1時30分から、場所はここの会場を予定しておりますのでご出席よろしくお願ひします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>